



環境配慮の工法を探求

コーケン（金沢区鳥浜町）

社会

「今ある社会インフラをなるべく長く使えるようにすることで、社会に貢献しよう」との思いを社名に込めた金沢区鳥浜町の（株）コーケン。橋やプラント、下水処理場などのインフラを重防食によって腐食から守っている。昨年12月、Y-SDGsの認証を取得した。

もともとブラスト工事から出発した同社。しかし、研掃材を加工物に投射し塗膜除去や粗物化するため、「ほこりが出る」「音がうるさい」「作業員の負担大」「環境負荷が高い」など「嫌われもの」の一面も。だからこそ増田聖史代表取締役の「環境に配慮しなくては」という思いは強い。砂に比べ粉塵や産廃の量を減らすことのできる水や鉄を研掃材に使った新しい工法を取り入れながら探求を重ねる。「もちろん初期投資はかかるが、そういうところには使っていきたい」と話す。近年、「環境負荷の少ないものを」という取引先も増えてきたという。



Y-SDGsの認定証を持つ増田代表

また、10数年前からエコ防食を研究し、有害物質スチレンを使わないコンクリート防食の塗料も自社開発している。

SDGs(持続可能な開発目標)って?

2015年に国連で採択された2030年までの国際目標。持続可能な世界実現のための17の目標を定めている。



コーケンが取り組む目標の一部